

平成30年度普通会計決算認定特別委員会

令和元年10月23日（水）

〔委員会の概要 商工労働観光部関係〕

中山委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（11時59分）

これより、商工労働観光部関係の審査を行います。

直ちに質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

高井委員

1点に絞って質問します。

企業立地促進事業費補助金でございます。見込みを下回ったということで、説明の時に不用額がたくさん出ておりました。

これは、現在何件あって、どこまで支援して、なぜそういう原因になったのかということをお教えください。

小原企業支援課長

ただいま、高井委員から企業立地促進事業費補助金の不用額についての御質問を頂戴したところでございます。

企業立地促進事業費補助金につきましては、企業が本県に移る際のインセンティブとして設けておる補助金でございます。いわゆる立地の際に投資した投下固定資産額の一部でありますとか、地元雇用に関係する費用を補助しておるものでございます。

今回、約12億円の不用額が出ておるといふことの理由でございますけれども、まず、この企業立地促進事業費補助金につきましては、企業の投資に対する補助というところがございまして、企業の事業活動はやはり生き物のようところがございまして、例えば、社会経済情勢の影響によりまして、設備投資の計画・期間の変更でありますとか、当初の内容の変更、また工場建設等の際に変更等の理由によって計画が延びたりとか、あと決算時期との兼ね合いによりました資金調達計画に基づく申請時の変更とか、様々な要因によりまして、企業のそうした事業活動に影響を受けるという側面がございます。

今回の補助金に関しましても、昨年度の状況で申しますと、数件程度、年度が前倒しになったりとか、平成30年度当初に申請予定だったものが今年度を送られてきたりとか、そうした状況が発生したことに伴いまして、不用額が生じておるところでございます。

もとより、予算の要求、予算の編成については、より精緻な形での要求が本旨であるということは強く認識しておるところでございますけれども、企業誘致と申しますのは、企業に円滑な事業活動をしていただいで、経済効果や地域雇用の創出、こうしたものを最大限に発揮していただくことが何よりも重要でございますので、企業のそうしたニーズにしっかりと対応ができるような予算の編成、また補助金の執行を心掛けていきたいと考えております。どうぞ御理解のほうをよろしくお願いをいたします。

高井委員

企業の活動に対するということですので、相手方があるのでいろんな状況変化が生じるのは仕方ないと思いますが、逆に、これだけたくさん不用が出ることになると、補助金がきちんと相手の要望やニーズに即してないのではないかと、大事な予算ですので、何かちょっと時期的なものも含め、いろんなことに微調整がもう少し必要ではないかというふうに感じます。

もっと役に立って企業が入ってきてくれるような、また今回の結果を踏まえていろいろ検討して、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

井川委員

マチ★アソビですが、今年は延期したのですか。

非常にいい試みで、人はたくさん来ているし、それなりの経済効果も生んでおりまして、今後どのようにマチ★アソビを発展させていこうと思っているのか、私も徳島市民として見解を聞きたいのですが。

横山にぎわいづくり課長

ただいま、マチ★アソビについて御質問を頂いたところでございます。

本年10月12日から14日に予定しておりました秋のマチ★アソビにつきましては、台風の影響もございまして延期を決定したところでございまして、今月の26日、27日に開催を予定しております。

マチ★アソビにつきましては、ちょうど今回、初開催から10年を経過しまして、当初1万2,000人程度の参加者数が、現在では1回の開催で8万人を超える非常に人気のあるイベントに成長してきたところでございます。

特に、参加者数の5割から6割は、県外から御参加いただいております。経済効果も試算したところ、1回の開催で7億円から8億円と推計をしているところでございます。

県といたしましては、全国のアニメファンから非常に人気の高いイベントとなっておりますので、今後とも実行委員会をしっかりと支援して、来年度以降も進めてまいりたいと考えておるところでございます。

井川委員

8万人は、私はちょっと、本当にそんなに来ているのかなというところでございますが、確かに人はたくさん集まっていると思います。

本当に商店街の方々も、マチ★アソビに来るお客さんは、格好はすごいけど行儀が良くてみんな可愛らしい子ばかりで、すごく褒めている所もございまして。今、ややトーンダウンしているところもありますので、やはり京都アニメーションがああいう形で悲惨な状況になったりしましたので、徳島も聖地といたらおこがましいですが、せっかくこういう企画を10年もやっているのですから、何かますます盛り立てていけるような企画をやっていただきたいと思います。

せっかく、8万人という数字なんですけど、そこまで集めている集客力のある企画でありますから、頑張っ続けていただきたいと思います。

それと徳島市の阿波おどり、県もバスとかいろいろ補助を出しておるという話ですけど、今後の取組について県はどのような見解を持っているのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

阿部観光政策課長

徳島市の阿波おどりについての今後の取組ということで、御質問を頂戴したかと思いません。

徳島市の阿波おどりにつきましては、今年8月12日から開催されまして、12日、13日は前年と比較して非常に良かったというところがございますが、14日、15日は残念ながら台風第15号の接近によりまして中止ということになったところがございます。

現在、徳島市におきましては、阿波おどり実行委員会、それからその受託事業者による阿波おどりの現状と今後に向けてのいろんな見直しなどについて検証が進められているところがございます。そうした状況も踏まえながら、県としてもその対応を検討してまいりたいと考えているところがございます。

井川委員

県としては、徳島市の阿波おどりだから応援というか協賛というものも、関わり合いは今までと同じようなものを続けていくということで、それ以上はないということですか。

阿部観光政策課長

徳島市の阿波おどりにつきましては、夏の県下最大級のイベントということで、県といたしましてもシャトルバスの運行による渋滞対策でありますとか、県内全域への周遊促進ということで観光案内所の運営でありますとか、阿波おどり振興ということでありますと、無料演舞場の運営について支援をさせていただいているところがございます。

また、阿波おどり全体の振興ということでございますと、夏の阿波おどりは県下全域で行っておりますので、そうしたPR。それから、阿波おどりの通年化、国際化といったところで、また、来週末には秋の阿波おどりということで、世界阿波おどりサミットも開催するところがございます。

徳島市の阿波おどりへの支援につきましては、今お話をさせていただいておるところでございますが、現状、徳島市のほうで、また来年に向けて努力と検討を進められていますので、まずはその辺も見させていただいてというところに対応していきたいと考えております。

井川委員

徳島市も、これからどんな要望をしてくるか分からないから、その辺は十分対応してやっていただきたいと思います。やはり8月12日から15日にかけて阿波徳島に全国からたくさんの方が来て、県下全域にそういう人が広がってくれることで経済効果ということはかなりあると思う。

徳島市の阿波おどりを成功させるということが、徳島県全体の観光行政にもかなり大きな割合を占めてくると思いますので、県としてもしっかりと、いろんな意見を聞きながら、

これからも進めていただきたいと思います。

井下委員

1点だけ教えてください。

グローバル人材育成事業のところで、平成29年度には産学官連携という言葉がなかったのですけれど、平成30年度にはこの連携という言葉が付いていまして、内容はどんな感じだったのか教えていただけたらと思います。

大岡国際課長

産学官連携によるグローバル人材育成事業についての御質問でございます。

産学官連携によるグローバル人材育成事業につきましては、人口減少と超高齢化が進む中で、本県経済が再浮上するためには若い世代の育成が急務であり、とりわけグローバル化が加速する今日の世界経済の中にあっては、国際的に活躍できるグローバル人材の育成が強く求められております。

文部科学省では、2020年までに日本人留学生12万人に向け、平成25年10月に民間の協力を得た海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」を開始し、将来世界で活躍できるグローバル人材をオールジャパンで育成する取組を行っております。

県では、海外展開に取り組む県内企業のグローバル化の推進と海外販路開拓の一層の推進を図るため、この「トビタテ！留学JAPAN」の地域人材構想を活用し、県、高等教育機関、経済団体、県内企業が一体となって、海外にチャレンジする意欲を持つ学生の留学支援を行い、世界的グローバルな視点で地域、ローカルの課題を解決できる若者を育てる地域グローバル人材育成事業を実施しております。

留学生の実績は、平成27年度から支援者累計で75名となっております。平成30年度につきましては応募者数11名、うち選考によりまして6名の方に海外留学を行っていただいております。この募集に際しましては、県内高等教育機関と連携して行っておるところでございます。

また、受入先ということに関しましては、企業の方の御協力も頂きまして、企業連携コースを創設しております。そこで、県内企業の海外拠点へのインターンシップ生の派遣ということを併せて行っておるところでございます。

井下委員

また、どんどん進めてもらえたらと思っていますし、いろいろ詳しくお伺いします。

北島副委員長

私も1点だけ。

説明資料の18ページにあります、コンベンション誘致促進事業についてお伺いしたいと思います。

以前、私も約10年前にこの事業でお世話になった身ではございますが、特にアスティとくしまで行われる、いわゆる各団体の全国大会であったり四国大会であったりといったところへの助成というのが主だと思えます。

1回の大会では約1,000人から2,000人規模、3,000人規模の大会であって、全国からこの徳島へ来ていただく、素晴らしい絶好の機会でありますので、そこに助成をするというのは県として当然していかなければならないと思います。

私の感覚的にここ5年ぐらいは、そういった大会が非常に多くなったのかなと思います。が、昨年であったりで直近の助成をした件数が、もし分かればお教えいただきたいと思います。

阿部観光政策課長

コンベンションの助成件数について御質問を頂いております。

今、北島副委員長のお話でございましたが、開催会場の施設利用はもとより、交通や飲食などの幅広い県内事業者の皆さんへの経済的な波及効果をとということで、コンベンションについて助成制度を県のほうで構えているところでございまして、平成30年度の助成件数は51件、延べ2万9,225人の方に宿泊していただいて、参加者としては3万人規模の方に来県していただいているところでございます。

北島副委員長

思っていたより非常に多い件数で、また3万人という方が1年間に来ていただくということは、実際に、例えばチラシだけであったり、インターネットで動画だけ見るのではなくて、やっぱり徳島に実際に来ていただいて、徳島はいいなということで、まずはリピーターになっていただく絶好のチャンスだと思います。

また、先ほどの御答弁にもありましたように、宿泊施設であったり、飲食に関しても1回当たり何千人という方がこの町に繰り出す、泊まっていただくということで非常に大きな経済効果があると思います。

ほかの県に行ってそういった大会に出たときによくあるのが、いつも観光マップや飲食マップが袋に入っているような状態で頂くのですが、ああいったものはなかなか見ない。帰るまで見ないみたいな感じがある。

今回、更に徳島をPRするもっといい機会にするために、今年度もプロモーションに力を入れられるというようなこともありますので、会場に徳島をPRするような掲示板といった面、会場に来ていただいた方の目に触れて、徳島にこんな景色があるのだとか、こんないい所があるのだかというような、目に見える、ぱっと意識的に徳島のいい所が認識できるようなパネルであったり、そういった工夫を今後していただけたらと思っております。

特に若い方というか、今はQRコードやARというようなものを使っていますので、そういったコンテンツも入れながら、更に徳島のPRにこのコンベンションを十分に活用していただけたらといったお願いをしまして、終わらせていただきます。

浪越委員

1点だけ、先ほどのマチ★アソビの件でございしますが、かつての観光コンテンツ充実強化のところで、先ほど数字を頂きましたら約8,000万円の運営費及び促進費を含めまして、昨年約16万人の方に来ていただいております。

経済効果に直しましたら7億円から8億円とお話がありましたが、これは当初の参加者数1万2,000人から、5月4日から6日で8万4,000人、9月22日からの分で7万1,000人の両方を足して15万人まで増えられたと。

単純に約10倍の経済効果と同時に人数も含めて増えてきておりますが、この約8,000万円の予算に対しまして、当初考えられていたよりもすごく充実されたのか、若しくはまだまだ伸びしろがある観光コンテンツであるのかだけ教えていただけますか。

横山にぎわいづくり課長

先ほどの経済効果でございますけれども、1回の開催で約7億円から8億円ということで、年間で直しますと15億円から16億円の経済効果があると推計をしているところでございます。

御質問を頂きましたマチ★アソビの伸びしろでございますけれども、マチ★アソビに多くのアニメファンに来ていただいているのは、イベントの内容がアニメファンにとっては非常に魅力的な内容であること、それから出演者と観客の方が非常に近い位置にあること、こういったところが人気の高い理由であると認識しているところでございます。

今後でございますけれども、現在、1回の開催で約8万人を集客しているところでございますが、この規模を拡大するとなりますといろいろ会場の問題等もありますけれども、そもそもこのマチ★アソビは、徳島市の中心市街地のにぎわいを取り戻すということが最初のコンセプトでございまして、徳島のマチを歩いて回遊し、マチの魅力を感じながらイベントを楽しんでいただくというものでございます。

県といたしましては、実行委員会に対して支援をしているところでございますけれども、このイベントの内容を十分に関係者と協議いたしまして、更に魅力のあるイベントにし、8万人が、9万人、10万人になるよう、しっかりと支援してまいりたいと考えております。

浪越委員

先ほど、経済効果的に言うと2回の開催の中で合計16億円ということで、8,000万円の20倍、そのあたり観光コンテンツの中で20倍という倍数で言うわけではないんですけど、やはりすごく地域の経済効果ができていると思います。効果ができているものに関して、これから新しい観光コンテンツを考える中で取り入れるべきであると思いますので、その点も含めまして、またいろいろ教えていただけたらと思います。

中山委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもちまして質疑を終わります。

以上で、商工労働観光部関係の審査を終わります。

これをもちまして、本日の委員会を閉会いたします。（12時22分）